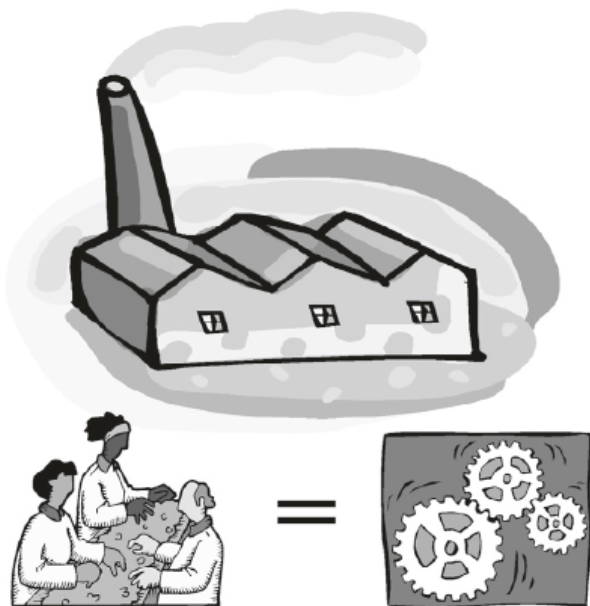


山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久
『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学 改訂版』
テキスト採用者向け資料
有斐閣

- この図表データは、山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学』改訂版（有斐閣，2020）を大学のご授業等のテキストとして採用いただきました先生方に限定して、著作権法で認められた範囲内で提供しております。ご講義などにぜひご活用ください。
- ご利用の際は、以下の3点につきましてご留意いただきますよう、お願い申し上げます。
 - ①本データを商用利用しないこと
 - ②本データを第三者に譲渡しないこと
 - ③本データを教育目的以外に使用しないこと

図 2-1 ホーソン研究がもたらした視点の転換

科学的管理法の労働者観



組織や工場は機械、
労働者は歯車のイメージ

人間性を重視した労働者観



仕事への満足感や幸福感、
誇りなどの感情の影響を重視

ホーソン研究
(Mayo, 1933)

図 2-2 欲求とモチベーションと行動の関係図

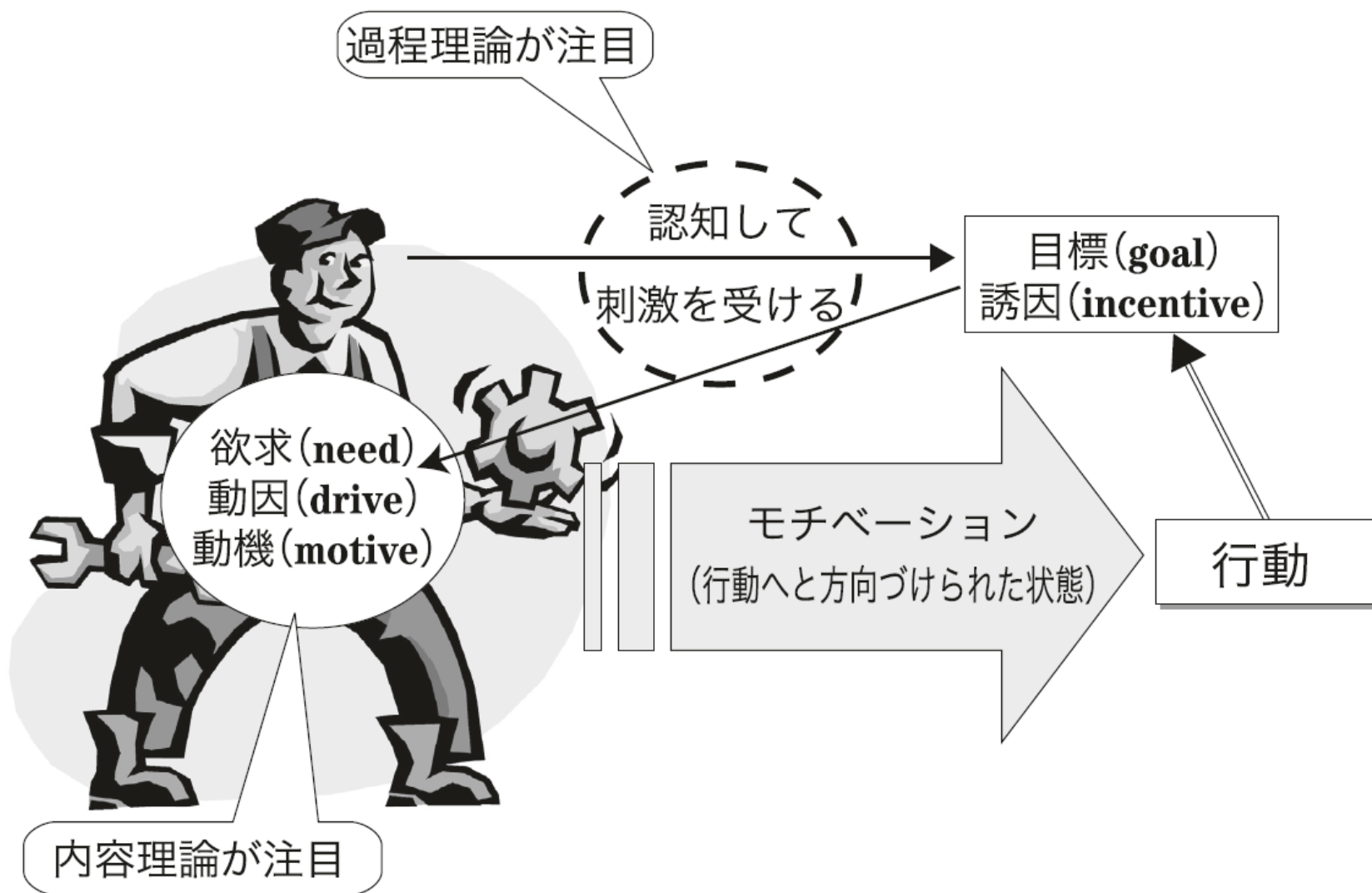


図 2-3 2つの欲求階層理論

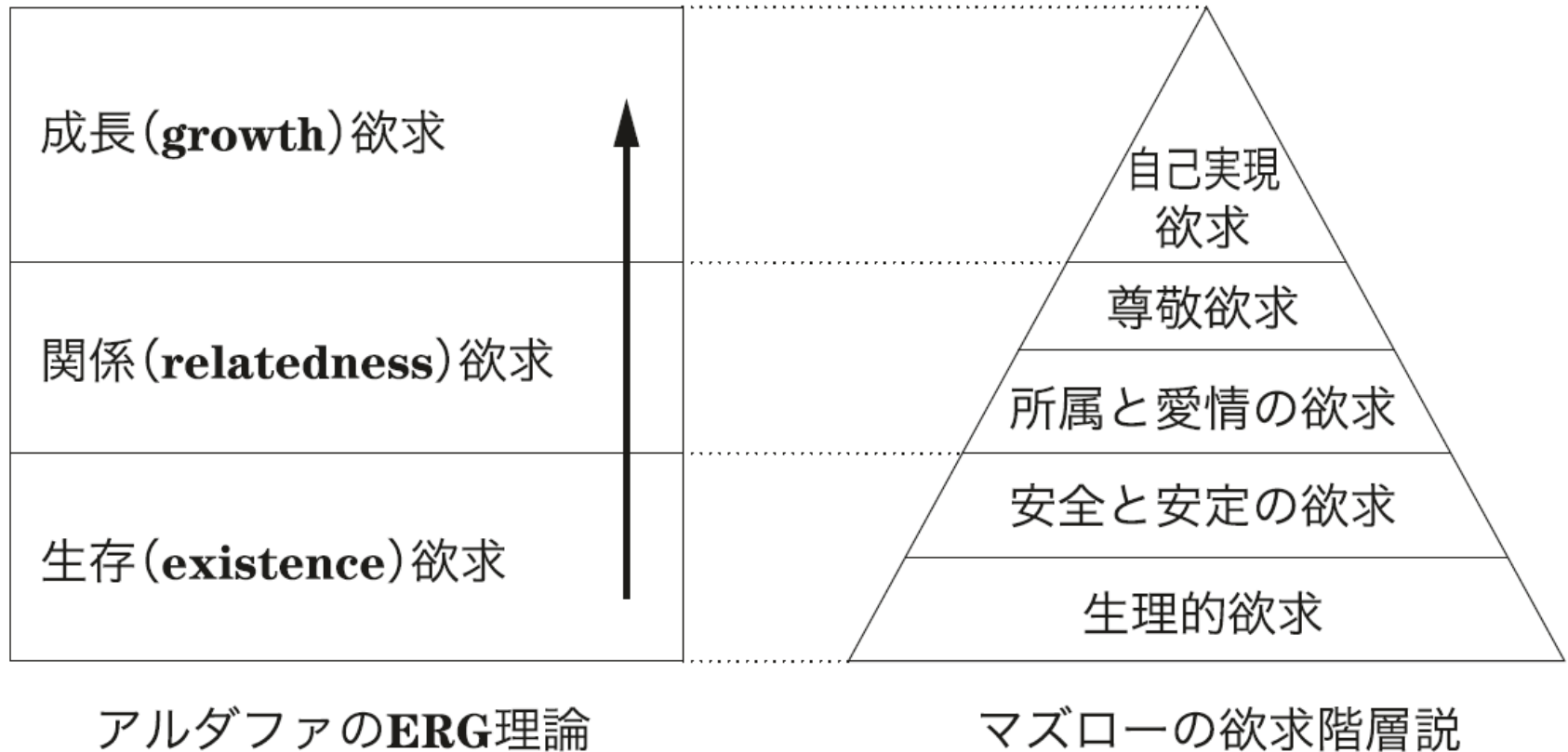


図 2-4 アトキンソンの達成動機理論

合成達成動機

接近傾向

〈成功動機 × 成功の期待度
× 成功の誘因価〉

マイナス

失敗回避傾向

〈失敗回避動機 × 失敗の期待度
× 失敗回避の誘因価〉

* 誘因価 = $1 - \text{期待度}$

** 成功の期待度 + 失敗の期待度 = 1

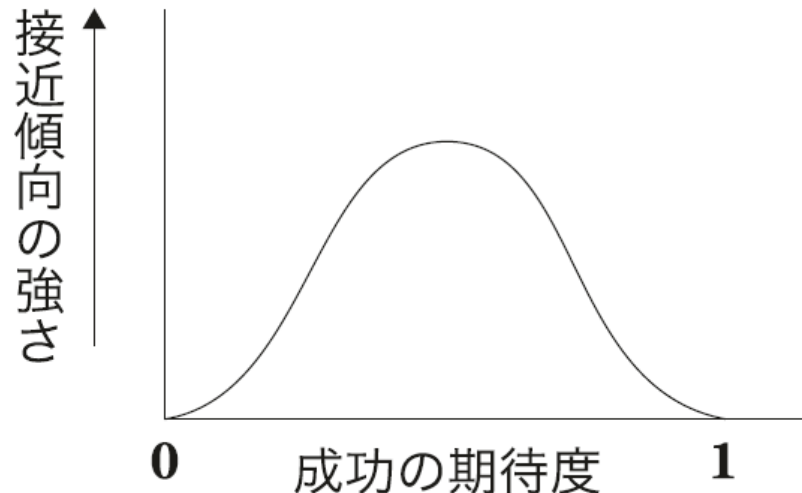
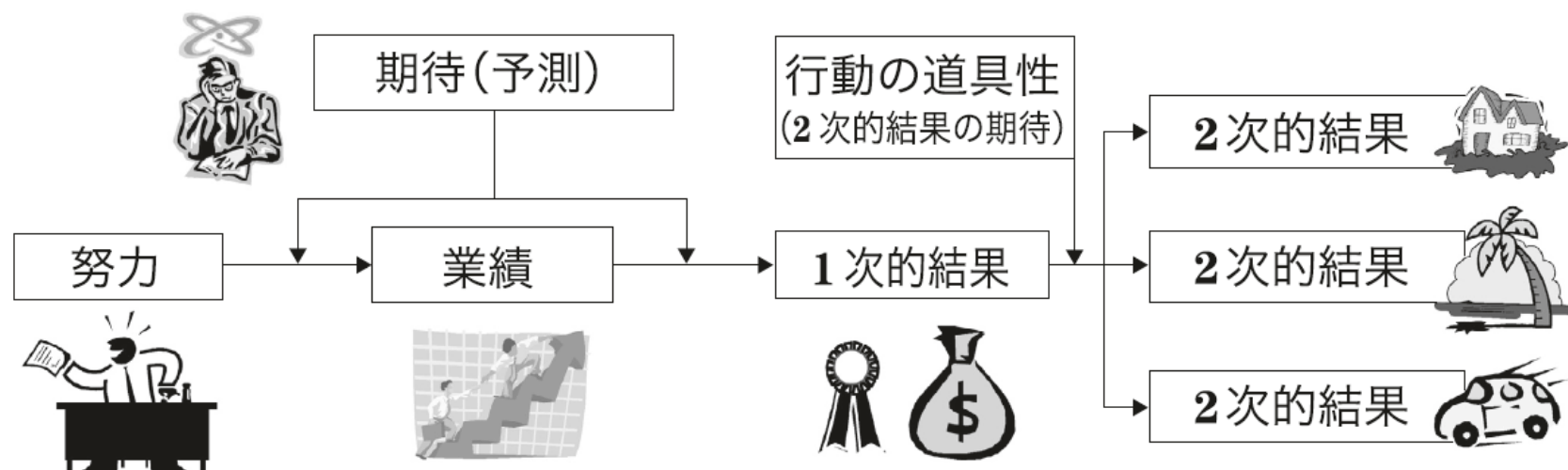


図 2-5 ヴルूमおよびポーターとローラーの期待理論の枠組み



—— ヴルームの期待理論 ——

行動への力(モチベーション) = Σ (期待 $\times$ 結果の誘意性)

ただし

結果の誘意性 = Σ (行動の道具性〈2 次的結果の期待〉 $\times$ 2 次的結果の誘意性)

—— ポーターとローラーのモデル ——

モチベーション = $\Sigma \{ (\text{努力} \rightarrow \text{業績の期待}) \times (\text{業績} \rightarrow \text{結果への期待}) \times (\text{結果の誘意性}) \}$